

甲子園短大 ○富田絹子 西田美枝子 山下慶子
大阪市環科研 榎元慶子

目的

前報につづき各食品の食事別配分について調査、検討したので報告する。

方法

第4報と同じ。年間262日分について、朝食、昼食、夕食、夜食の摂取食品量を求め、季節別および年間平均値、SD、CV、配分比率と算出、ついで各々の季節間比較(t検定)を行った。さらに食事別に各食品間の相関行列を作成、相互関係を検討した。

結果

1) 食品摂取量の食事別配分比率は、朝食では砂糖類64%、油脂類57%、乳類95%、嗜好飲料46%が高く、昼食は穀類38%、卵類56%が高く、夕食はいも類52%、豆類74%、魚介類57%が高く、夜食は菓子類96%、果物類73%が高くなっている。

2) 季節比較では、朝食の砂糖類、菓子類、卵類に、昼食の油脂類、卵類、乳類、野菜類に、夕食の穀類、いも類、卵類、野菜類に、夜食の穀類、いも類、菓子類、豆類に季節間の有意差がみとめられた。

3) 食品間で $r > 0.4$ の高い相関関係を示したのは、朝食では砂糖類・乳類、油脂類・野菜類、果実類(-)、豆類・乳類(-)、嗜好飲料(-)、乳類・嗜好飲料など、昼食では魚介類・肉類(-)、夕食では砂糖類・嗜好飲料、果実類、魚介類、肉類(-)、乳類・果実類、果実類・嗜好飲料など、夜食では砂糖類・豆類、卵類、油脂類・卵類などであった。